



エコアクション21

環境経営レポート

令和3年度 <37期>

(2021年9月～2022年8月)



「ネクスト・カイト」 「ネクスト・サンバイ」

2022年11月25日発行

sanwa
株式会社 三和興業


エコアクション21
認証番号0009575

目 次

1. 組織の概要	p. 2
1-1) 会社概要	
1-2) 認証登録範囲	
1-3) 対象組織図	
1-4) 許認可	
1-5) 処理工程図	
2. 環境経営方針	p. 7
3. 2021 年度(令和 3 年度)及び中期環境経営目標、 当年度の目標対実績と判定、次年度の環境経営目標	p. 9
4. 当年度環境経営計画の取組結果とその評価 及び次年度の環境経営計画	p. 10
5. その他 サステナビリティ	p. 13
6. 環境関連法規などの遵守状況及び違反、訴訟等の有無	p. 13
7. 代表者による全体評価と見直し・指示	p. 14

1. 組織の概要

1-1) 会社概要

会社名 株式会社 三和興業
代表者 代表取締役社長 大山 哲寿
所在地 《本社》
〒813-0044 福岡市東区千早2丁目2-43
TEL 092-671-1855 FAX 092-681-7004
URL www.sanwa-iec.co.jp MAIL info@sanwa-iec.co.jp
《篠栗SRC》
〒811-2404 福岡県糟屋郡篠栗町大字内住 4156-35
TEL 092-957-4900 FAX 092-948-2668
《飯塚SEC》 〒820-0713 福岡県飯塚市内住流山 3599-29
TEL 0948-72-3242 FAX 0948-72-3439
《古賀営業所》 〒811-3115 福岡県古賀市久保 588
TEL 092-942-7110 FAX 092-942-7420

※篠栗 SRC 部門には飯塚 SEC と古賀営業所を含む

創業 1963年(昭和38年)4月 資本金 3,000万円
従業員数 97人(2022年4月) 売上高 4,441百万円(2022年8月決算)
事業年度 9月1日~翌年8月31日(今回の経営レポート対象期間:2021年9月~2022年8月)
延床面積 2,212㎡

環境管理責任者及び担当者

責任者 篠栗SRC副所長兼営業部課長 坂本 晃一

TEL 092-957-4900

担当者 本社総務部主任 釘島 太郎

TEL 092-671-1855

事業内容

- ・解体工事
- ・産業廃棄物収集運搬、産業廃棄物処分(中間、最終)

事業登録

建設業許可

福岡県知事許可(特-2)第59855号

建築工事業、解体工事業、とび・土工工事業

古物商許可

福岡県公安委員会 第901151210071号(平成24年9月24日)

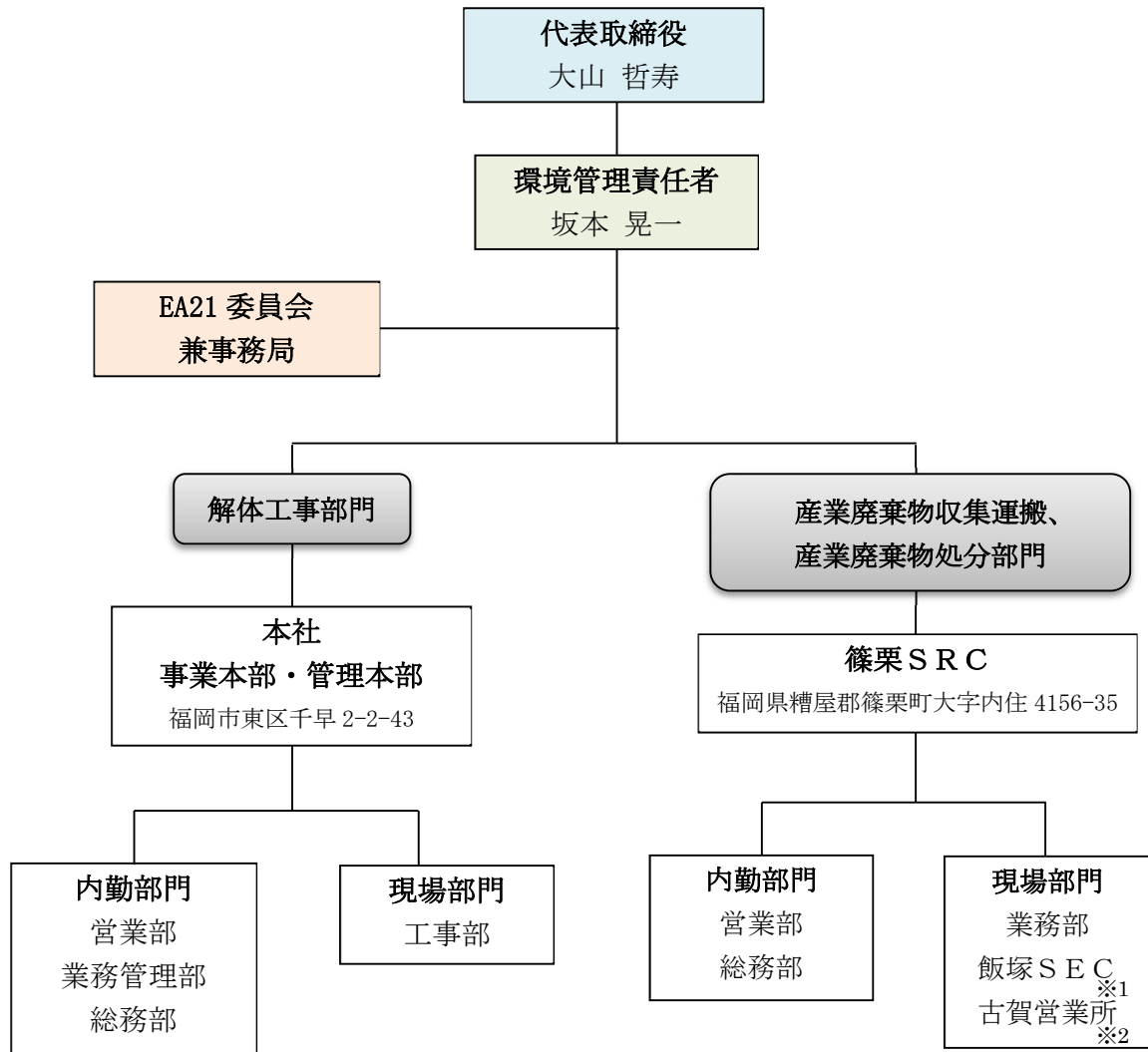
1-2) 認証登録範囲

対象事業所名 株式会社 三和興業
対象サイト 全組織・全活動
対象事業活動
・解体工事
・産業廃棄物収集運搬、
産業廃棄物処分(中間、最終)



1. 組織の概要

1-3) 対象組織図



※1 福岡県飯塚市内住流山 3599-29

※2 福岡県古賀市久保 588

(役割分担表)

所 属 (役職)	役割・責任・権限・使命
代表者	全体の統括、環境方針の設定、環境への取組みを実施するための資源の準備、全体の評価・見直し
環境管理責任者	環境に関する事柄全体の把握／環境経営システムを構築・運用し、その状況を代表者に報告
エコアクション 21 委員会	環境目標の達成状況及び活動計画の実行状況を審議し社内へ発表 環境管理責任者を補佐して環境経営システムの維持・改善を行う 文書及び記録類の作成・維持・管理 内部環境監査に係る業務
各部門	電力・水・社用車等燃料消費量、一般及び産業廃棄物の廃棄量・リサイクル率の管理 委員会からの連絡窓口 指摘・周知された事項について、各従業員へ周知

1.組織の概要

1-4)許認可

◆産業廃棄物収集運搬業

県・政令市	優良認定	積替え保管	許可番号	許可年月日及び有効期限	許可品目															
					木くず	ガラスくず等	がれき類	廃プラスチック類	金属くず	紙くず	繊維くず	ゴムくず	汚泥	燃え殻	廃油	廃酸	廃アルカリ	動植物性残さ	銻さい	ばいじん
福岡県	○	○	04040020039	2016年9月18日 2023年9月17日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
佐賀県	○	-	04103020039	2016年9月10日 2023年9月9日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大分県	○	-	04407020039	2021年4月28日 2028年4月27日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
長崎県	○	-	04200020039	2016年5月23日 2023年5月22日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
熊本県	○	-	04305020039	2021年7月22日 2028年7月21日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
宮崎県	○	-	04503020039	2016年9月18日 2023年9月17日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
鹿児島県	○	-	04603020039	2016年6月10日 2023年6月9日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
山口県	○	-	03500020039	2019年3月13日 2026年3月12日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
岡山県	-	-	03300020039	2020年9月1日 2025年8月31日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

◆特別管理産業廃棄物収集運搬業

県・政令市	優良認定	積替え保管	許可番号	許可年月日及び有効期限	許可品目							
					廃油	廃酸	廃アルカリ	廃石綿等	銻さい	ばいじん	燃え殻	汚泥
福岡県	○	-	04050020039	2021年4月26日 2028年4月25日	○	○	○	○	○	○	○	○
佐賀県	○	-	04153020039	2021年4月14日 2028年4月13日	○	○	○	○	○	○	○	○
熊本県	○	-	04355020039	2016年8月17日 2023年8月16日	○	○	○	○	○	○	○	○
宮崎県	○	-	04553020039	2019年8月31日 2026年8月30日	○	○	○	○	○	○	○	○
大分県	-	-	04457020039	2020年3月9日 2025年3月8日	○	○	○	○	○	○	○	○
長崎県	-	-	04250020039	2020年3月18日 2025年3月17日	○	○	○	○	○	○	○	○
鹿児島県	-	-	04651020039	2020年3月27日 2025年3月26日	○	○	○	○	○	○	○	○
岡山県	-	-	03350020039	2020年9月1日 2025年8月31日	○	○	○	○	○	○	○	○

◆積替え保管施設

保管場所所在地		福岡県飯塚市内住字用意ノ元2641番6								
保管場所面積		54平方メートル								
産廃の種類 (積替保管上限)	廃類 プラ	ガラス 屑等	紙屑	木屑	繊維屑	がれき 類	金属屑	汚泥	積上げる ことので きる高さ	
石綿含有廃棄物に限る	○ (11.25m3)	○ (11.25m3)	○ (11.25m3)	○ (11.25m3)	○ (11.25m3)	○ (11.25m3)			1.5m	
蛍光灯・廃HID・廃放電ランプに限る	○ (8m3)	○ (8m3)					○ (8m3)		1m	
廃一次電池及び廃標準電池に限る							○ (1m3)	○ (1m3)	1m	

◆運搬車両一覧

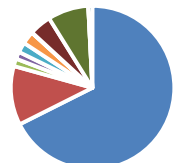
車両の名称	合計台数
バン	1
キャブオーバ	19
脱着装置付コンテナ専用車	12
ダンプ	12
ダンプセミトレーラ	1
トラクタ	1
セミトレーラ	2
【合計】	48

◆年間運搬量実績

産業廃棄物種類	アスコン 般	ガラス 屑等	金属屑	紙屑	木屑	石膏 ボード	繊維屑	廃プラスチック類	混合 廃棄物	水銀使用 製品	石綿含有 廃棄物	総合計
2021年度	68,242	11,799	1,471	1,469	2,013	2,513	41	4,424	8,121	2	858	100,953

単位: t

運搬量実績グラフ



1.組織の概要

1-4)許認可

◆産業廃棄物処分量

県・政令市	優良認定	許可番号	許可年月日及び有効期限	許可品目										
				事業の区分	木くず	ガラス等	がれき類	廃プラスチック類	金属くず	紙くず	繊維くず	ゴムくず		
福岡県	○	04040020039	2016年9月18日	中間処理	破碎	○	○	○	△	△	△	△	△	△
					選別	○	○	○	○	○	○	○	○	
			2023年9月17日	最終処分(埋立)	圧縮梱包	△	△	△	○	△	○	△	△	
					最終処分(埋立)	△	○	○	○	○	△	△	○	

◆産業廃棄物 種類別処理施設

産業廃棄物種類	処分方法	処理能力	施設名称・所在地
コンクリートがら	破碎	640 t / 日	(株)三和興業 篠栗SRC 福岡県糟屋郡篠栗町大字内住宇尾花4156番29
アスファルト・コンクリートがら	破碎	640 t / 日	
その他がれき類・ガラス屑・コンクリート屑及び陶磁器屑	破碎 選別	640 t / 日 196 t / 日	
廃プラスチック類	選別 圧縮梱包	196 t / 日 268 t / 日	
金属くず	選別	196 t / 日	(株)三和興業 篠栗SRC 福岡県糟屋郡篠栗町大字内住宇尾花4156番6
紙くず	選別 圧縮梱包	196 t / 日 312 t / 日	
木くず	破碎	3.7 t / 日	
繊維くず	選別 圧縮梱包	196 t / 日 450 t / 日	(株)三和興業 飯塚SEC 福岡県飯塚市内住字用意ノ元2941番6
廃石膏ボード	破碎	4.8 t / 日	
混合廃棄物 (安定型及び管理型品目含む)	選別	196 t / 日	(株)三和興業 篠栗SRC 福岡県糟屋郡篠栗町大字内住宇尾花4156番6
がれき類・廃プラスチック類・ガラス陶磁器 (石綿含有産廃含む)	安定型埋立	埋立面積 19,583m ² 埋立容量 138,227m ³ 残容量 37,409m ³	(株)三和興業 飯塚SEC 福岡県飯塚市内住字流山3599番29外15筆

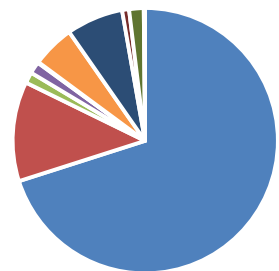
◆年間中間処理・最終処分量実績】

※木屑、廃プラ、紙屑、ガラス屑等、繊維屑の混合

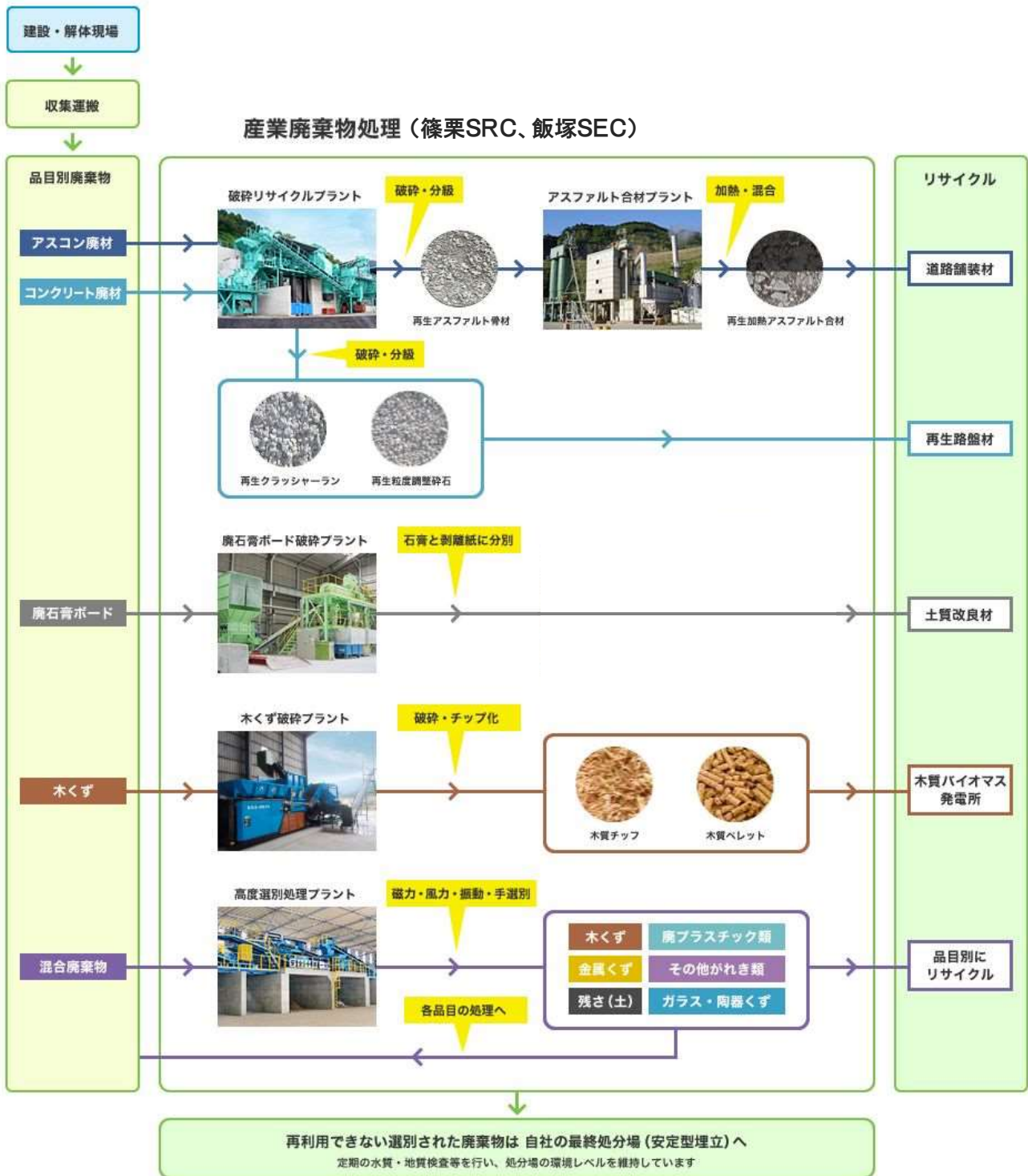
単位：t

年度	産廃種別処理方法	アスコン	ガラス屑等	金属くず	紙屑	繊維屑	廃プラ	混合廃棄物※	木屑	石膏ボード	石綿含有廃棄物	総合計
2020年度	中間処理	96,900	16,816	1,817	2,056	127	7,129	9,621	1,164	2,442	△	138,072
2021年度	最終処分(安定型埋立)	△	△	△	△	△	△	△	△	△	405	405

中間処理・最終処分量実績



産業廃棄物処理ワークフロー



2. 環境経営方針

「持続可能な社会で人々を幸せに」

三和興業は、「環境保全」を経営における最重要課題と位置づけています。リサイクル事業の「3R」をベースにゼロエミッションを究極の目標として、再資源化の促進、CO₂の排出抑制、さらに再生可能なクリーンエネルギー事業の推進を図ります。環境への取り組みを具体化し、以下の方針のもと活動を展開しています。



環境経営方針

基本理念

株式会社三和興業は、企業理念「持続可能な社会で人々を幸せに」に基づき、解体工事や産業廃棄物処理を通じて全社員で一致協力し、地球環境保全と経済成長が両立する持続可能な社会の実現を目標に環境経営の継続的改善を図りながら企業活動を進めます。この環境方針は、社員全員に周知するとともに、広く一般へ公開します。

行動指針

環境経営システムを構築、環境負荷の低減に向けて運用する為下記事項を重点的に取り組みます。

1. 産業廃棄物の分別を徹底し、資源としてリサイクルを推進します。
2. 機材の維持管理を徹底し、資機材の長寿命化に取り組みます。
3. 電力の使用削減に取り組みます。
4. 化石燃料の使用量削減に取り組みます。(エコドライブの推進、使用重機のハイブリッド・電気化の推進)
5. 事業活動に関する環境関連法規等を遵守します。
6. 協力業者にも本取り組みを理解して頂き、共に活動していただくよう推進していきます。
7. 現場や会社周辺の清掃を行い、周辺地域の美化と環境意識の向上に努めます。

制定日：2019年9月1日

株式会社 三和興業
代表取締役社長

大山 哲寿

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



三和興業は事業活動や社会貢献活動を通じ、SDGsの課題解決に向けて負の影響を最小化、正の影響を促進させて積極的に取り組みます。

私たちは解体・産業廃棄物処理のエキスパートとして、持続可能な開発に向けて大きく貢献できる事業であることを認識しています。解体工事で発生する廃棄物の再資源化による循環型社会への貢献はもちろん、事業活動による発生する二酸化炭素の削減（負の影響を最小化）や太陽光を中心としたクリーンエネルギー事業（正の影響を最大化）によって低炭素社会に貢献します。さらに、環境面だけでなく、社会・経済と統合的に世界共通の課題解決に貢献できるように、ステークホルダーと関係性をさらに発展させ、私たち三和興業にできることを一つ一つ取り組んでいます。



3. 【2021年度(令和3年度)及び中期環境経営目標】、
 【当年度の目標対実績と判定】、
 【次年度の環境経営目標】

■COP26における日本の温室効果ガス削減目標(注)を照準にして、長期環境経営目標を設定した。(注:2030年に、2013年比46%削減)
 ■【次年度の環境経営目標】は、中期環境経営目標と同様とする
 ■本社および篠栗SRCの内訳については、次ページ以下に示す。

年度：9月～翌年8月

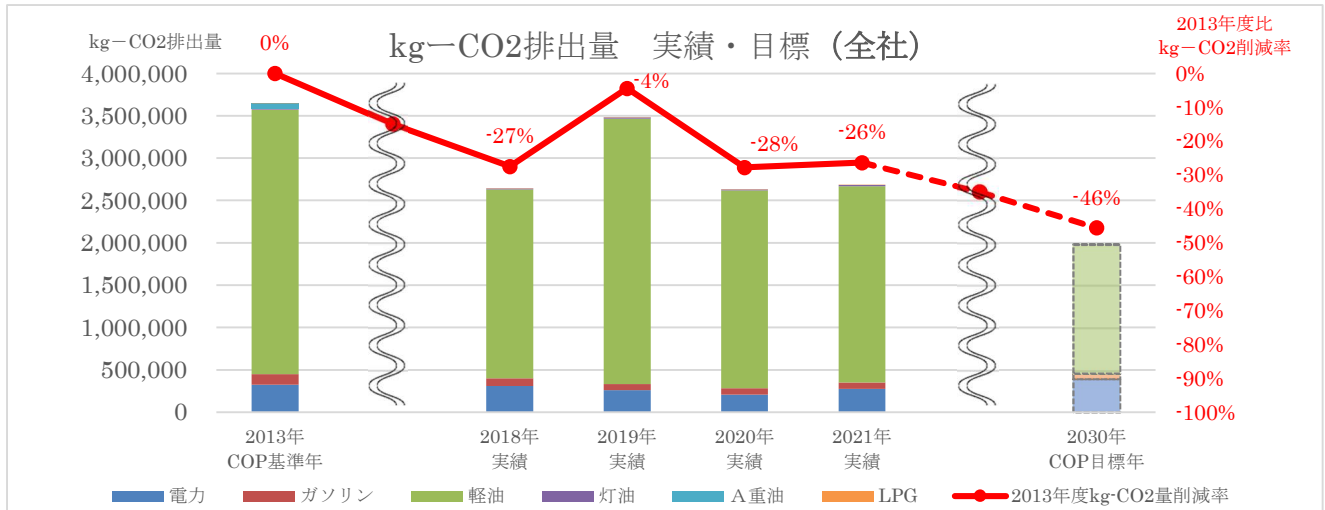
環境経営目標	対象部門	単位	基準年度		2021(令和3)年度及び中期環境経営目標					長期環境経営目標	
			2013(H25)年度	2020(R2)年度	2021(R3)年度(中期の1年目)			2022(R4)年度	2023(R5)年度	2030(R12)年度	
			基準 [削減率]	基準 (削減率)	目標 (-1.0%)	実績		目標 (-2.0%)	目標 (-3.0%)	目標	
				値	対基準 削減率	判定					
二酸化炭素排出量の削減	全社	kg-CO2 ※1	3,642,624	2,630,808 [-28%]	2,604,500 (-1.0%) [-28%]	2,684,341	(2.0%) [-26%]	×	2,578,192 (-2.0%) [-29%]	2,551,884 (-3.0%) [-30%]	1,967,017 [-46%]
		kWh	676,581	435,107 [-36%]	430,756 (-1.0%) [-36%]	591,173	(35.9%) [-13%]	×	426,405 (-2.0%) [-37%]	422,054 (-3.0%) [-38%]	365,354 [-46%]
		ℓ	54,139	32,743 [-40%]	32,416 (-1.0%) [-40%]	32,973	(0.7%) [-39%]	×	32,088 (-2.0%) [-41%]	31,761 (-3.0%) [-41%]	29,235 [-46%]
		ℓ	1,191,038	890,110 [-25%]	881,209 (-1.0%) [-26%]	884,705	(-0.6%) [-26%]	×	872,308 (-2.0%) [-27%]	863,407 (-3.0%) [-28%]	643,161 [-46%]
自社発生廃棄物の削減	全社	枚	140,857	402,407	398,383 (-1.0%)	402,951	(0.1%)	×	394,359 (-2.0%)	390,335 (-3.0%)	76,063
	本社	%	23.0	31.0	31.3	37.0	(6.0%)	○	31.6	31.9	33.6
		%	98.7	96.2	97.2	95.1	(-1.1%)	×	98.1	99.1	100%を目指す
水使用量の削減	本社	m3	1,481	4,889	4,840	7,007	(43.3%)	×	4,791	4,742	
本来業務	SRC	%	98.1	94.2	95.1	93.5	(-0.7%)	×	96.1	97.0	100%を目指す
環境性能向上・サービス改善	全社	社会貢献活動		— 初年度	定期的な 清掃	定期的な 清掃		○	社外イベント 開催	定期的な 清掃	
		環境負荷低減の取組み		— 初年度	FIT証書 購入 ※3	FIT証書 購入 ※3			電動式BH購入		

※1 購入電力の調整後二酸化炭素排出係数は0.48kg-CO2/kwh (2020/令和2年度)：九州電力株式会社より
 ※2 篠栗SRCは雨水・湧水使用の為、不計測。本社のうち、現場利用分については売上高に伴い変動する。
 ※3 九州電力(株)との“FIT非化石証書または非FIT再エネ指定非化石証書の使用により実質的に再生可能エネルギー電気及び実質的にCO2排出量ゼロの価値を有するものと扱うことができる電力供給契約”の締結を表す。

4. 当年度環境経営計画の取組結果とその評価

及び次年度の環境経営計画

CO₂ 排出量の削減



取組計画

- ① 老朽化した重機、運搬車両の更新などによる燃費向上に取り組めます。
- ② 電動式重機を新規導入し、CO₂ 排出量を削減します。
- ③ 設備、機械類のメンテナンスを重点施行し、効率的な設備の運用を図ります

取組結果

- ① 重機 8 台・運搬車両 3 台入替え、電気自動車 2 台増車
- ② 有線式電動油圧ショベル 1 台購入契約 (22 年 10 月納品)
- ③ 修理溶接工技能者を 2 名増員

保有クリーンエネルギー機

- ・電気式油圧ショベル 2 台
- ・ハイブリッド油圧ショベル 1 台
- ・バッテリー駆動式ミニショベル 1 台
- ・電気式破砕機 1 機
- ・電気自動車 3 台
- ・敷地内 EV 充電スタンド
今後も随時増台予定

評価

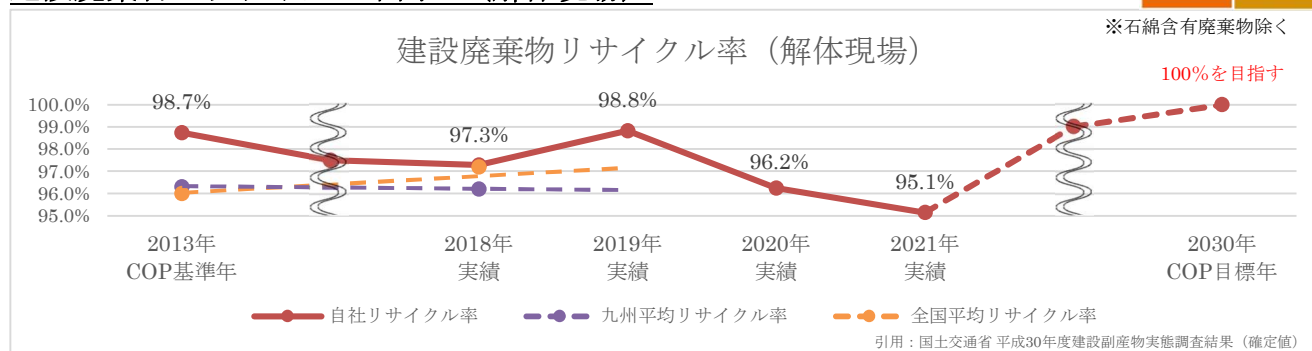
- ・日本の温室効果ガス削減目標 (2030 年 46%削減) を念頭に置いた長期視点の取組みを踏まえ、まず削減施策のベースとなるインフラ態勢構築を地道に積み上げていくため、重機・車両の入替えや電動化推進を進め、これに加え重機・機械設備のメンテナンス体制構築などによる効率的設備運用などに注力していきました。
- ・当年度の結果は、天神ピックアップなどによる大型解体工事の受注・売上増の中、8 割強を占める軽油使用量は前年比削減を達成しました。一方で篠栗 SRC のリサイクル率向上を目指した新設備導入に伴う電力使用量が増加し、CO₂ 排出量は前年を上回りましたが、売上増加率 18% に対し、増加率を 2.0% に留めることができました。
- ・篠栗 SRC では、引き続き新規設備導入を予定しており、電力使用量の増加を勘案し、再エネ指定非化石証書の購入なども今後検討していきます。

※目標値は前項目「3. 環境経営目標」の通りとする。

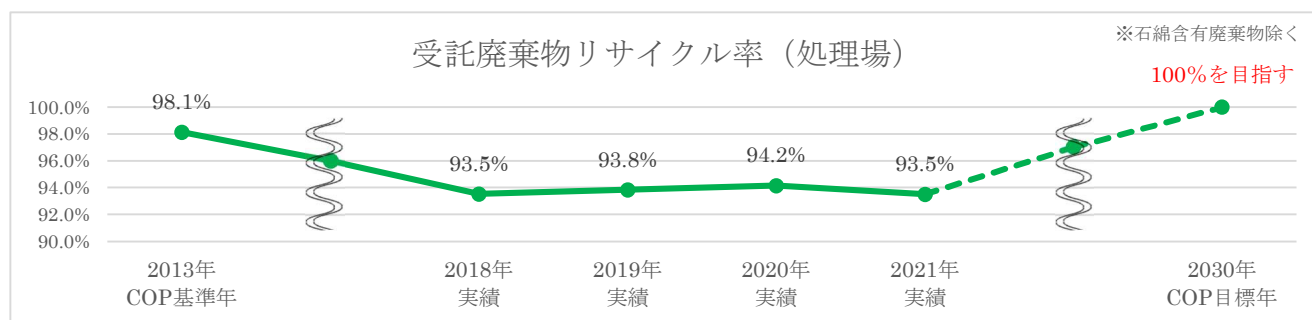
次年度の環境経営計画

- ① 老朽化した重機、運搬車両を随時更新し燃費向上に取り組めます
- ② 電動油圧ショベルの導入や重機・車両の効率的な運用に取り組めます

建設廃棄物のリサイクル率向上（解体現場）



受託廃棄物のリサイクル率向上（処理場）



取組計画

- ① 新たに「バリスティックセパレーター」（高性能選別機）を導入し、選別精度を飛躍的に向上させ、リサイクル率の向上を図ります。
- ② 新破碎設備の導入を計画しさらなるリサイクル率向上を目指す体制を構築していきます。

取組結果

- ① バリスティックセパレーターを導入。混合廃棄物の選別処理能力が196t/日と約10%アップしました。
- ② 新破碎設備（二軸破碎機「バリラ」）導入決定、許可申請、住民説明会実施。
ー導入後のバリスティックセパレーターとの関係や、業務効率化・選別精度アップの方策を策定

評価

- ・従来から、解体現場や選別プラント投入前段階でのマンパワーによる選別レベルの向上により、リサイクル率の向上を図っております。
- ・当年度は、建設廃棄物のリサイクル率が大型解体工事の増加により、やや低下しましたが、受託廃棄物については、ほぼ横ばいの状況で、一定のレベルに達していると評価しています。
- ・当年度中（10月）に、高性能選別機を導入し、さらに次年度には新破碎機を導入予定であり、マンパワーに頼らないリサイクル率向上の態勢構築を着実に進めています。

次年度の環境経営計画

※解体現場・処理場の両リサイクル率向上について、目標値は前項目「3. 環境経営目標」の通りとする。

- ① 篠栗 SRC に新破碎機「バリラ」を新規導入（令和4年12月）し、更なるリサイクル率向上を目指します
- ② 篠栗 SRC における混合廃棄物の中間処理施設について、設備の連携や効率的な運用方法を検討し、リサイクル化の精度向上とコスト削減を図ります。

水使用量削減・社会貢献活動・環境負荷低減の取組み

※目標値は前項目「3. 環境経営目標」の通りとする。

取組計画

- ① 各解体工事現場において節水に取り組む
- ② 事業所周辺の定期的な清掃を実施します
- ③ 篠栗町との包括連携協定を踏まえ、「地域のエネルギー」に貢献する取組みを実施します
- ④ 本社ビル使用電力の全量について実質的な再生エネルギーおよびCO₂排出量ゼロ化に取り組めます

取組結果

- ① 水使用量は増加。これは都市部における解体工事の粉じん防止等による水使用の増加に伴うもの。
- ② 事業所周辺の清掃を習慣化。また、場内を舗装整備し車両の出入りによる粉塵飛散を抑制。
- ③ 篠栗町へ蓄電池を寄贈
- ④ 本社ビルの契約電力を九州電力(株)との“FIT 非化石証書または非FIT 再エネ指定非化石証書の使用により実質的に再生可能エネルギー電気及び実質的にCO₂排出量ゼロの価値を有するものと扱うことができる電力供給契約”の締結により実質全量再エネ化

評価

- ・水使用量については、解体工事の売上高に伴い変動しますが、売上高大幅増に伴い各現場の節水活動を上回る増加となりました。
- ・社会貢献・環境負荷低減の取組みについては、当年度の計画に沿って実施し、成果をあげました。
- ・事業所周辺の定期的な清掃活動は、本社、篠栗 SRC とも定着しており、これを継続していきます。
- ・当年度、オープンした「キッズニア福岡」とオフィシャルアクセラレーターのスポンサー契約を締結し、同社の青少年育成を支援することとしました。今後、様々な活動にも参加し、社会貢献に努めていきます。

次年度の 環境経営 計画

- ① 解体現場における水の使用は、工事に伴う周辺への粉じん等の発生抑制を最優先にしながら、極力節水に取り組めます。
- ② 事業所周辺の定期的な清掃を実施します
 - ・本社周辺の早朝清掃
 - ・篠栗 SRC 周辺の県道清掃・樹木伐採
- ③ 篠栗 SRC の地元住民への施設案内会や環境経営の取組みの説明会を実施します。
- ④ キッズニア福岡のオフィシャルアクセラレーターとして、同社が実施する地域の青少年を育成するプロジェクトに参加、出展し、青少年の健全育成を支援します。
- ⑤ 篠栗 SRC 使用電力の証書購入による実質的な CO₂ 排出ゼロ化を検討します。

5. その他 サステナビリティ



安全大会開催

無事故無災害の実現と安全意識向上のため、年1回来賓を招き安全大会を開催。安全を重視することが、企業経営と存続の基盤であり、責務であることを全社員、全協力会社の皆様が認識し、一層の安全活動の推進で災害ゼロから危険ゼロを目指していきます。（本年は新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止）



定期安全衛生協力会

協力会社との共存共栄・相互繁栄と災害防止・安全衛生の推進を目的とし、協力会【栄和会】を足す。定期的な協議会や情報発信で和をもって安全衛生推進に取り組みます。



消防訓練実施

篠栗SRC内にて所有している消防車を使用した消防訓練を実施。個人の意識向上及び出火・災害時に備え、定期的に行い防火管理に努めてまいります。



社員旅行開催

社員間のコミュニケーション向上・リフレッシュを目的に、毎年社員旅行を開催しています。（本年は新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止）



敷地内場内整備（舗装・緑化）

処理場内の道路舗装を行い、運搬車両の出入り時に発生する泥・粉塵の飛散抑制を図りました。また、デッドスペースに銀杏を植樹するなど場内緑化も積極的に行っています。



6. 環境関連法規などの遵守状況及び違反、訴訟等の有無

※篠栗 SRC 部門には飯塚 SEC と古賀営業所を含む

主な対象法令等一覧	法的及びその他の要求事項 (対象法令等)		遵守状況		法的及びその他の要求事項 (対象法令等)		遵守状況	
	本社	篠栗SRC	本社	篠栗SRC	本社	篠栗SRC	本社	篠栗SRC
建設リサイクル法	○		○		家電リサイクル法	○		
騒音・振動規制法	○		○		消防法	○		○
大気汚染防止法	○	○	○		フロン排出抑制法	○		○
石綿障害予防規則	○		○		水質汚濁防止法	○		○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	○	○	○		浄化槽法	○		○
PCB廃棄物処理特別措置法	○		○		下水道法	○		
最終処分場の技術上の基準を定める省令				○				

環境関連法規などの一覧及びそれらの遵守状況を確認した結果、環境関連法規への違反はありません。尚、関係当局よりの違反の指摘、利害関係者からの訴訟等もありません。

7. 代表者による全体評価と見直し・指示

■今年度の活動状況

今年度も、新型コロナウイルス感染症対策の徹底を図りながら、事業運営を推進した。

その中で、老朽化した重機・車両の更新や電動化推進、リサイクル率向上を目指した高性能選別機の導入など、今年度の環境経営活動においても、持続可能な社会の実現に向けた環境負荷の低減のための取組みを推進することができた。

■活動結果における着眼点、課題

今年度の活動結果の内容について、以下の点に着目した。

- ① CO2 排出量は、8割強を占める軽油使用量が前年実績を下回りながら、リサイクル率向上のための高性能選別機の導入に伴う電力使用量の増加により、目標未達となった。今後も次項②のとおり、設備投資を継続する予定であり、使用電力への対策が課題となった。
- ② リサイクル率向上に向けた設備投資計画のとおり、当年度から設備導入を順次開始しており、今後は設備間の関係と効率的運用の態勢構築が重要である。
- ③ 自社電力のクリーンエネルギー化のための太陽光発電を検討してきたが、昨今の市場環境や用地問題から当面は事業化が困難である。
- ④ 社会貢献の観点から、事業所周辺での活動やキッザニア福岡への参画など活動の拡大を図ってきた。さらに篠栗町など地元地域住民の事業への理解を深めていただく活動も重要である。

これらを踏まえ、今後の環境経営活動のあり方を検討していく必要がある。

■今後の活動の方向性（上記の結果、評価を踏まえて）

①篠栗 SRC 使用電力の実質的な CO2 排出ゼロ化に向けた施策検討

今後の設備投資と太陽光発電の事業化が当面困難なことを踏まえ、本社で実施した証書購入による実質的な CO2 排出ゼロ化を検討していく。

②リサイクル率アップに向けた施策（選別、破砕能力の向上）

- ・令和4年12月に新破砕機を導入
- ・木屑破砕機の入替えに向け準備を進める（令和5年秋導入に向けて）
- ・新破砕導入後の各設備の関係強化と効率的運用態勢の構築
- ・新設備導入に伴い新たなリサイクル商品の可能性検討

③社会貢献活動、環境負荷低減の取組み

篠栗 SRC の地域住民や篠栗町との交流、施設案内会や環境経営への取組み説明などの活動を定期的に行い、積極的に推進していく。

また、キッザニア福岡のオフィシャルエクセラレーターとして、青少年の健全育成を支援し、イベントに参画して子供向けワークショップなどを実施する。

■環境経営方針の推進

三和興業は、リサイクル事業の「3R」をベースにゼロエミッションを究極の目標としているが、それを推進するため、「SDGs」への参加も表明し、事業活動を展開していこうと考えている。

事業活動にあたって、CO2 排出量の削減やリサイクル率向上に向けた直接的な諸施策に加え、「持続可能な社会」と「環境」に関連した、地域への貢献活動やSDGsの取組みも積極的に推進していきたい。